

第2回 学生懸賞未来社会エッセイコンテストについて

2020年3月23日

公益社団法人都市住宅学会関東支部

学生懸賞未来社会エッセイコンテスト審査委員長 富田裕

<総評>

都市住宅学会関東支部では、昨年度からの独自企画として第2回学生懸賞未来社会エッセイコンテストを実施した。今回は、学部生部門と大学院生部門の2部門制により実施し、どのようなエッセイが応募されるか審査員一同楽しみにしていたところ、最終的に学部生部門9作品、大学院生部門6作品の、計15作品の応募を得ることができた。エッセイコンテストとしたのは、研究論文のようなまとまったものではなくても、着想が独創的であったり、あるいは、自らの研究活動や地域活動をもとにした構想を一定の説得力をもたせてまとめたような試論を広くもとめることで、学際学会らしい自由な議論の場をつくろうとしたためであった。最終的に表彰対象となった作品（学部生部門5点、大学院生部門3点）については、いずれも学生らしい熱意の感じられるエッセイであったと審査員一同感じている。

なお、エッセイの中には、真剣な問題意識から具体的な事例を多角的に分析し、具体的で説得的な提案をしているものも少数あり、期待されるものであったが、全体的には、一般的な論説や統計等をもとに総論的な提案を展開し、提案内容が抽象的で、説得力のないものが多くた。前回コンテスト（学部生部門のみ）に比して応募数が少なかった点も課題として残った。今後とも、問題意識を育み、分析、検討、提案するためのよい機会として、本エッセイコンテストを活用していただきたい。

以下、各エッセイについての個別講評とあわせて、全文を公開しており、あわせて目を通していただくことができれば、審査員一同の大きな喜びである。

【学部生部門】

●最優秀エッセイ1点（副賞：図書カード3万円）

- ・山本 韶（横浜国立大学） 「役割や居場所を感じられる暮らし」

「役割や居場所を感じられる暮らし」は、高齢者にとって、「人に役立つ感覚や自分の居場所が感じられる場」を作ることが大切ではないかという問題意識に基づき、居場所を与えることのできる場として、大船渡市の「居場所ハウス」、陸前高田市広田町の「ホームステイ民泊」を分析し、カフェ、食堂、公民館、コミュニティースペース、図書館といった場所を「役割を担う場所」としていく可能性を提案している。身近な経験から導き出された問題意

識とともに、問題意識から事例の分析、提案まで一貫した検討がなされており、論理構成的にも優れている。

●優秀エッセイ 2点（副賞：図書カード 1万円）

- ・下村 隼生（東京工業大学） 「未来を見据えた食育計画～みんなで使えるキッチンスペース～」

「未来を見据えた食育計画～みんなで使えるキッチンスペース」は、複数人でキッチンを共用する共用型キッチン施設を提案している。共用型キッチン施設の提案は興味深いが、問題意識として世界や日本の食料事情、飢餓といった幅広い問題を述べているのに対し、分析、提案の部分では食品ロスの観点から共用型キッチン施設について述べており、問題意識と分析、提案とのつながりが十分でない面がある。また、共用型キッチン施設の実現性を検討するには、具体的な事例の分析が不可欠と思われるが、それがないため、提案内容が抽象的になっている。具体的事例の検討が必要と思われる。

- ・千葉 汎一（横浜国立大学） 「学校博物館が、地域を、人を築く」

「学校博物館が、地域を、人を築く」は、小学校の余裕教室を学校博物館とし、地域住民と子供の関係性を深めていく可能性について興味深い提案をしている。具体的には、横浜市の特定の小学校の学校博物館が地域住民により運営され、地域住民や子供の参加の場となっていることを分析し、その効用を述べ、地域と小学校が親密にかかわる学校博物館を提案している。学校博物館の事例分析、余裕教室の高齢者利用との比較、提案に興味深いものがあるが、問題意識の部分では地域間の関係性など地域と学校との相互交流を問題意識とすることが明確でないものとなっており、分析の起点をもう少し明確化するとよいと思われた。

●佳作エッセイ 2点（副賞：図書カード 3000円）

- ・尾崎 雄太（東京大学） 「長く住宅が利用される都市の実現に関する考察」

「長く住宅が利用される都市の実現に関する考察」は、「住宅が長い時間愛されて使われる都市」の実現に向けて不動産鑑定手法の見直し、大規模開発の抑制、ワンルームマンション規制の撤廃、働き方改革の推進を提案している。提案内容を具体的な内容とし、提案内容と直接結びつく問題意識に基づき検討、分析をするとよかったですと思われる。

- ・藤本 大輔 (東京工業大学) 「歩きたくなるような都市」

「歩きたくなるような都市」は、道の魅力や豊かさを取り戻すための方策を提案している。提案の内容は具体的で興味深いが、写真を掲示して当該道路のよい部分、悪い部分を示すなど提案の内容をより具体化するとさらによくなつたと思われる。提案に至る前の分析では車、電車の利用との比較をしているが、この部分でも、移動経路の状況を比較分析することで説得力を持たせるとよかつたと思われる。

【大学院生部門】

- 最優秀エッセイ 1 点 (副賞: 図書カード 3 万円)

- ・金山 侑以 (横浜国立大学大学院都市イノベーション学府) 「医療的ケアが必要な子どもとその家族が安心して暮らせる場」

「医療的ケアが必要な子どもとその家族が安心して暮らせる場」は医療的ケア児の現況や家族の負担といった問題意識をもとに、ハード面、ソフト面から医療的ケア児とその家族が安心して暮らせるための住まい・街について提案している。真剣な問題意識のもと、提案内容はよく考え、検討されている。今後の研究の展望も示しており、今後の研究が期待される。

- 優秀エッセイ 0 点 (副賞: 図書カード 1 万円)

- ・該当作品なし

- 佳作エッセイ 2 点 (副賞: 図書カード 3000 円)

- ・宮城 仁美 (横浜国立大学大学院都市イノベーション学府) 「個性的な都市づくりのために公共図書館ができることー地域資料の活用ー」

「個性的な都市づくりのために公共図書館ができることー地域資料の活用ー」は、地域資料を活用、提供している公共図書館の事例を分析している。問題意識の分析及びどのような内容、方法の地域資料の活用、提供が望まれるかについての具体的な提案があるとよかつたと思われる。

- ・照沼 翔大 (横浜国立大学大学院都市イノベーション学府) 「建築物保存からみた

エコミュージアム展開の可能性」

「建築物保存からみたエコミュージアム展開の可能性」は、萩の事例をもとに建築物保存からみたエコミュージアム展開の可能性について述べている。現状の課題の呈示及びこれをどう解決するかに関する検討があるとよかったです。

(富田裕)